



植込み移設、塀設置で市は対応 7年越し道路側騒音、円満解決

千葉県船橋市がある市道を拡張するので、A夫妻はこれに協力し、家屋を立て直すために都内の設計事務所に設計監理を依頼しました。木造2階建て。屋根、外壁とも金属製。外壁は道路に接近しています。地元の工務店がこれを施工し2007年2月に竣工しました。



ところが、生活を始めて間もなく道路からの騒音と振動に夫妻は悩まされます。新しい道路は車輛が増え、早朝から配達や遠方目的のバイク、トラックが走ります。加えて、屋根が鋼板なので2階の寝室や1階の居間にいても強い雨の音がうるさい。寝室で歩く音、浴室の換気扇の音も気になってくる。ついに奥様は眠れなくなり、続いて体格のよいご主人も医師に掛かるようになりました。

設計者は金属屋根に消音効果があるという塗装や、二重サッシを付けるなど工夫してみたものの、ついにお手上げ。2008年3月に建築ネットワークセンターに相談が持ち込まれ、翌年4月に私が担当として取り組みを開始しました。

A夫妻が市の道路課に掛け合って道路を舗装し直したら凹凸が生じるまでの一時は騒音がなくなったということにヒントを得て、また向かい側の用地買収交渉成立などもあり、市は一部の車路を工事し直します。今回は路盤から仕様のグレードを上げたので騒音と振動はかなり減少しました。



音の問題はまだありました。歩道を歩きながら外壁を叩く人がいます。提案を受け入れて、市は車道側にあった植え込みを除去して家屋側に1m幅で作り替え、車輛からの騒音を遮断する効果を求



市との話し合いで植え込みを家屋側に作り替え、さらに外壁との間に高さ2mの塀を設け騒音を防ぐ。

めて高さ2.1m、長さ15mの塀を築造しました。基礎はがっちり、アルミの独立柱、摸擬板38mmの塀です。船橋市と協定書も結びました。市も根気よく対応し道路については円満解決しました。家屋においての雨音や2階での歩行音は残っていますが、私の仕事は一応ここで終了です。竣工から7年、当方が取り組んでから5年掛かりました。

(一級建築士 荻野廣己)

「避難路確保を 住民とともに考える」活動 新宿区の助成事業に

NPO建築ネットワークセンターは、新宿区協働推進基金助成事業に「防災・減災対策と避難路確保をともに考える」事業を申請し、5月28日付で決定されました。

事業の内容は、早稲田南町を調査、住民アンケート、交流会などを開催し、避難路をどう確保していくか考えていくものです。この地域は崖があり、住宅が密集し、道路が狭いなど震災等の場合、避難しにくい地域と思われています。

建築ネットは、この地域の経験をいかし、今後、さらに新宿区全体に広げていく方針です。多くの人にご協力を呼びかけています。

ティーたいむ

水と緑が癒す地域密着の美術館 — 六町ミュージアム・フローラー —

つくばエクスプレス六町駅(東京・足立区)から3分も歩くと、閑静な佇まいのなかに屋根が湾曲し窓がないひとときを異彩を放つ白い建物が目に入ってきます。白谷建設関連会社と個人によって2012年6月にオープンした六町ミュージアム・フローラーで、白谷武一社長が館主兼プロデューサーを務める私設の美術館です。

白谷建設は父親の白谷菊平氏が足立区で創業(1933年)、以後、今日まで足立区に根を張り事業を継続して来ました。白谷氏は生まれ育った足立区に強い愛着をもっています。

「このへん一帯が区画整理で原野、砂漠状態になってしまったとき、マンション等収益事業にするか迷った結果、これまでとは違う観点から考えてみようと思いました」。

趣味で始めた絵のコレクションが増え、どこかに飾りたいという気持ちの一方で、何か足立区に必要なものはないか、いろいろ思いをめぐらし行き着いたのが美術館でした。

設計は友人の縁で日大教授の横河健氏に依頼し、一切を任せました。2階から一望すると、まるで水と緑のオアシスのよう。そこだけ周囲から切り取ったような別世界が広がります。

建物は2013年度日本建築家協会の優秀建築100選に入り、東京駅丸の内駅舎保存・復元、東京一スカイツリータウンなどと並んで日本建築大賞9選に入りました。デザインがユニークだけでなく、隣接の震災用備蓄倉庫と一体で災害時に公に使用できるよう設計されています。

井戸水を取り入れ雨水を利用するなど非常時の水を確保し、また太陽光発電によりLED照



建物は2013年度に日本建築大賞9選に入った。

明、雨水・散水用の浄化の電力等をまかなっています。

1階(半地下)展示スペースは回廊式。①花、②装い、③古(いにしえ)をテーマとする3室に分かれ、それぞれのテーマに沿って約20点ずつを展示し、季節に応じて年4回作品を入れ替えます。現在活躍している画家から近代の有名画家まで多彩な絵が並んでいます。現在は「涼夏展 夏の花と装い」を開催中(7月31日まで)。

2階は多目的スペースで一般に公開しています。「地域の人にどんどん使ってほしい」と言い、子どもたちの教育目的の使用に対しては最優先、かつ無料で貸し出しています。1、2階の延べ床面積は約500m²。

白谷氏が絵のコレクションを本格的に始めたのは10年前。もともと野鳥観察が趣味で、トレッキングをするうちに花や野草に魅かれるようになり、やがて花の絵に魅かれるようになったと言います。館名はギリシャ神話に出てくる花の女神。地域密着の文化発信拠点として、今後ますます注目を集めそうです。

- 入館料／大人300円、学生200円、小学生以下無料
- 開館時間／午前11時～午後5時 ■休館日／日・月曜日(8月は休館)
- 催し物／◆～7月31日「涼夏展 夏の花と装い」
- ◆9月2日～10月31日「秋／美術館に憩う展」
- 併設展「海を渡った近代日本画の巨匠たち」(横山大観、竹内栖鳳、藤島武二、岡田三郎助)